

OXORA

仕様

サイズ(1台)	約H1,550×W700×D600mm
重さ(1台)	約170kg
設定標高範囲	標高1,200～3,900m相当(酸素濃度18.2～13.0%)
定格電源(参考)	AC100V±10%、50/60Hz



遠隔モニタリング機能

運転状況の遠隔モニタリングにより、
トラブルの未然防止や早期解決をサポート

その他製品

パルスオキシメータ

販売名: ライトテック DP1
医療機器認証番号
302AHBZX00002000



ダイキン工業株式会社 特機事業部

〒566-8585 大阪府摂津市西一津屋1番1号 TEL: 06-6349-7318

- 本カタログは印刷物のため、実際の製品の色と若干異なる場合があります。
- 製品改良のため仕様や機能の一部を予告なしに変更する場合があります。

OXORA
Instagram



お問い合わせ
導入事例



街中を、高地にする。

OXORA



空気で答えを出す会社
ダイキンの低酸素システム
オクソラ





街中を、高地にする。

OXORA

都市にしながら、あなたの体は高地へ近づいていく。
酸素が少し薄くなり、心地よい負荷の中で運動できるその空間は、
ダイキンの常圧低酸素システムが実現したもの。
気圧はそのまま酸素濃度を細やかにコントロールし、
普段のトレーニングルームを
高パフォーマンスの低酸素空間に変える。

心肺機能強化や筋力強化、リハビリなどで
効率的な運動効果が得られ、都市にしながら
高地トレーニングをしているような感覚になる。
高地トレーニングを手軽に行える「OXORA」。
それは、すべての人の運動を特別な体験へと変える、
空気で答えを出すダイキンからの新しい提案です。



トレーニングが、
生まれ変わる。

アスリートが選んだ、日常の中の高地トレーニング。

ワコール女子陸上競技部 スパークエンジェルス様



練習で追い込みきれなかった時、走り込みを追加するだけでは故障につながるため、OXORAを活用して効率的に仕上げています。気圧を変えないので疲労が残りにくく、高山病のリスクもないので安心です。部屋の出入りが自由なのも便利です。今後、高地環境を日常生活に取り入れることで、どのような変化が出てくるのか研究を進め、スポーツ科学の側面からもチームの強化をはかっていきたいと考えています。

順天堂大学 陸上競技部 長距離ブロック様



OXORAは気圧を下げないので、通常の寮の一室を低酸素ルームにすることができました。出入りが自由にできて、誰でも気軽にトレーニングできるのも嬉しいポイントです。現時点では故障明け選手の復帰トレーニングに活用していますが、疲労骨折した選手が急ピッチで仕上げられたのはOXORAのおかげです。今後は大学とも連携しながら、低酸素トレーニングの成果を数値化して競技力向上につなげていくつもりです。



標高2,500mのジム。

目的に合わせて広がる、低酸素の可能性。

タイガース フィットネスクラブ ラフィット様



持久力をつけるためや、ダイエットのために利用されるお客さまが多くいらっしゃいます。コンパクトかつ静かなので、防音などの工事が不要で既存のスペースにそのまま導入できました。

竹山エアラボ(神奈川大学)様



高齢化が進む団地の一角に低酸素トレーニング施設を設置し、神奈川大学サッカー部が運営。部員の競技力向上だけでなく、地域住民の健康増進やコミュニティの活性化、学生の健全育成に役立っています。

エイコースポーツ「ALTI-FIT(アルティフィット)」様



会社帰りに利用される市民ランナーの方からリハビリ中のプロサッカー選手まで、幅広いお客さまが利用されています。店舗内に低酸素ルームを設置したことで、お客さまとのコミュニケーションも密になりました。

株式会社ZAOPA様



ピラティスマシンのショールーム内に低酸素ルームを設置し、ピラティスだけでなくオフィス空間としても活用しています。また、機器自体がコンパクトで静かなため、ショールーム内に置いてもまったく違和感がありません。

FUNCTION

機能紹介

医療用製品の技術を応用して開発された
ダイキンならではの酸素コントロール技術。

※本製品は医療機器ではありません。

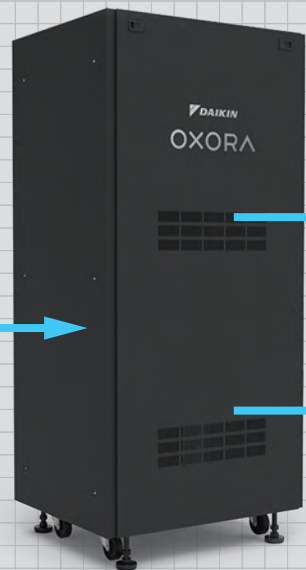
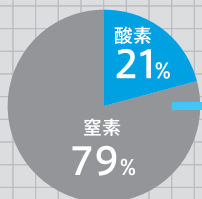
ダイキンの低酸素システムは、自社製品である医療用の酸素濃縮装置の技術を応用したもので、柔軟性・信頼性・静音性に優れています。さまざまな規模の空間に活用できるほか、トレーニング空間はもちろん、オフィス空間などの静けさが求められる場所にも適しています。また、酸素濃度を18.2～13%※（標高1,200～3,900m相当）の範囲でコントロールできるため、用途に応じた低酸素空間づくりが可能です。

※一般的な生活空間の酸素濃度は約21%

低酸素ユニット

空気中の酸素と窒素を分離するため、酸素濃度を細かくコントロール可能。低酸素の空気だけでなく、高酸素の空気をつくりだすことも可能です。

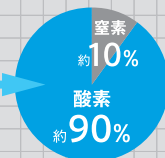
一般的な
生活空間の空気



※酸素濃度はイメージです



低酸素空気
運動効率UP



高酸素空気
リフレッシュ

低酸素システム
紹介動画



空間に合わせた設置が可能な「柔軟性」



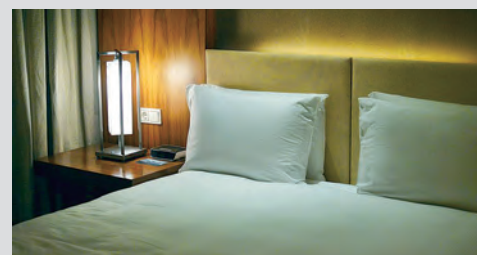
複数台を組み合わせるユニット構造の採用により、搬入・設置が容易で、個人用の小部屋からマシントレーニングができる大空間まで、スペースに合わせた柔軟な構築が可能です。

濃度を自動で安定制御する「信頼性」



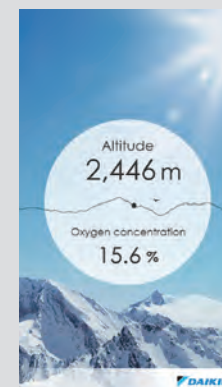
酸素濃度に加え、CO₂濃度も自動制御。既定のCO₂濃度になると自動換気を行います。また、ユニット構造の利点を活かし、万が一の故障時でも他ユニットが継続運転するため安心です。

圧倒的な静音性



機械室を別に設けなくても設置できるほどの静音性を誇ります。防音工事が不要なため、さまざまな空間に設置でき、静けさを求められる施設にも導入可能です。

標高ディスプレイ



標高表示機能

低酸素室内の酸素濃度と、それに相当する標高を表示します。

スケジュール運転機能

利用開始時刻と終了時刻を曜日ごとに設定可能。設定された時刻までに指定の標高となるように自動運転するため、オンオフなどの操作が不要です。

背景画像は自由に変更可能

RESEARCH

研究結果

低酸素研究には まだまだ可能性と未来がある。

研究で見てきた低酸素トレーニングの効果

低酸素トレーニングは従来、マラソンなど持久系競技者のための手法と考えられてきました。しかし、最近の研究では、短距離走やサッカー、ラグビー、テニスといった間欠的なパワー発揮が必要な球技種目にも有効であることが明らかになっています。酸素が少ない環境で運動すると乳酸処理能力が高まり、試合の終盤まで動き続ける力が養われるからです。また、低酸素と暑熱といった複数の環境ストレスを組み合わせることで、さらなる効果を引き出す研究も進んでいます。センサー機器の進歩によって低酸素トレーニング後の血糖値や自律神経活動の変化を24時間モニタリングできるようになり、従来は見えなかった体内の変化を把握できるようにもなりました。こうした知見の蓄積は、競技力向上のみならず健康維持や病氣予防にまで研究の射程を広げています。



立命館大学内にある実験室でのトレーニング風景



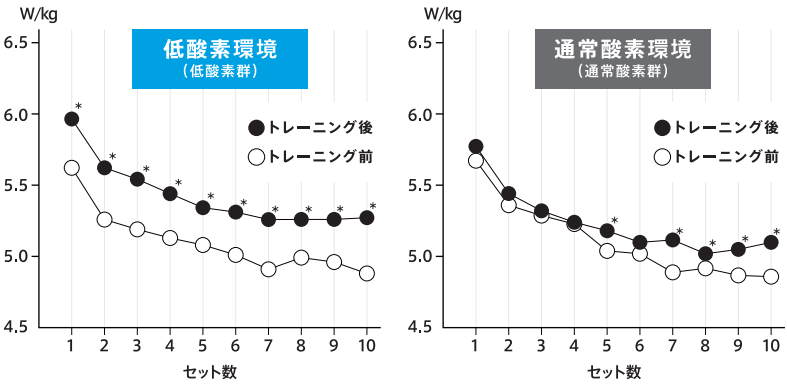
後藤 一成 立命館大学スポーツ健康科学部教授

健康増進およびスポーツの競技力向上に資する、トレーニングや栄養法、疲労回復法などの開発に関する研究を行う。低酸素トレーニングの分野では、アスリートの競技力向上はもちろん、一般の人の健康増進にどのような効果があるのかを研究中。

競技者だけでなく、低酸素をもっと幅広い人へ

低酸素環境がもたらす効果は、アスリートに限った話ではありません。研究結果として、血糖値の上昇が抑えられたり、血管が柔らかくなり血圧が下がるといった成果も確認されています。注目すべきは「運動しなくても効果が期待できる」という点です。オフィスで低酸素環境にすれば、座って会議をしているだけでも血圧上昇を抑えられるかもしれません。つまり、これからの働き方を大きく変える可能性があるということです。今後、企業での生産性や健康への影響を実証研究で明らかにしていく予定です。ダイキンとの共同研究を通じて、数年後には社会全体の健康寿命延伸に貢献できる未来が見えてきています。

低酸素環境でのトレーニングが間欠的なパワー発揮に及ぼす影響の実験



球技選手を対象に、週2回・4週間にわたり間欠的なベダリングトレーニング（7秒全力のベダリングを30秒間の休息を挟みながら繰り返すトレーニング）を、低酸素環境（低酸素群）または通常酸素環境（通常酸素群）で実施した。トレーニング期間前後において、7秒間の全力ベダリングを10回繰り返すテストを実施した結果、低酸素群ではすべてのセットにおいて発揮パワーの有意な増加が認められた。

図中の値は平均値を、*はトレーニング前の同一セットでの測定値との有意差を示す。
(Kasai et al.2015をもとに作図)

『point 0 marunouchi』の低酸素ルーム



Address: 東京都千代田区丸の内二丁目5-1 丸の内二丁目ビル4階

会員型コワーキングスペース「point 0 marunouchi」内に低酸素ルームを導入。標高約2,500メートルに相当する高地環境を想定し、酸素濃度が約15.5%（通常の酸素濃度の約75%）に管理された空間になっています。約17㎡の室内にトレッドミル2台とデスクを設置し、低酸素空間での短時間の運動が健康に及ぼす影響や、運動以外にも会議室として利用した際の効果などを検証しています。仕事の合間を活用して手軽に健康維持に取り組みめる低酸素空間を構築し、オフィスや学校、自治体など幅広い領域への社会実装を目指しています。こうした取り組みが評価され、国内のコワーキングオフィスとして初めてWELL認証プラチナランクを取得。ショールームとしても活用しており、実際に低酸素環境を体感し、製品をご覧くださいことが可能です。